

授業 科目	看護管理	担当 教員	外部講師 専任教員	単位数	1	時期	3年次 7月～
				時間数	15		
目的：看護をマネジメントできる基礎能力を養う。							
目標：1）ケアのマネジメントを理解する。							
2）看護サービスのマネジメントを理解する。							
3）マネジメントに必要な知識と技術を理解する。							
4）看護専門職としての職業倫理（責任と任務）を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	看護管理の基本	社会の変化と看護職の役割 協働 看護マネジメントとは			講義		専任教員
2	看護サービスの マネジメント1	組織で取り組む看護活動			講義		外部講師
3	看護サービスの マネジメント2	看護の質向上のための取り組み			講義		
4	看護サービスの マネジメント3	看護と経営 業務のマネジメント クリニカルラダーの実際			講義		
5	看護現場に影響を与える 制度と法律	看護と法令 看護と行政組織 看護と専門機関・職能団体 保健医療福祉政策の動向			講義		外部講師
6	看護専門職としての マネジメント	セルフマネジメント 看護専門職とキャリア			講義		専任教員
7	看護職の倫理的行動	看護職の倫理綱領 看護の場で生じやすい倫理上の問題			講義		
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 看護管理 看護の統合と実践①（メディカ出版） 看護学概論 基礎看護学①（メディカ出版）					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	安全・感染管理	担当 教員	専任教員 外部講師	単位数	1	時期	3 年次 5 月～
				時間数	30		
目的：専門領域での知識・技術をもち、看護実践できる能力を養う。							
目標：1）医療安全の基本的な考え方と事故防止について理解する。							
2）リスクマネジメントの実際を理解する。							
3）科学的根拠に基づいた感染防止の技術を学ぶ。							
4）感染管理の実際を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	医療安全の 基本的考え方	看護事故防止の考え方			講義	専任教員	
2	事故防止対策 1	誤薬の防止・輸血ミスの防止			講義		
3	事故防止対策 2	転倒・転落事故の防止			講義		
4	事故防止対策 3	患者の取り違い（誤認）・電子カルテ等情報伝達時の トラブル防止			講義		
5	医療安全とコミュニケーション	事故防止のためのコミュニケーション			講義		
6	組織的な安全管理	組織としての安全対策・法的責任 コンフリクトマネジメント			講義		
7	リスクマネジメントの 実際 1	リスクの把握・分析・対応・評価			講義	外部講師	
8	リスクマネジメントの 実際 2	現場におけるリスクマネジメントの実際 心理的安全性			講義		
9	リスクマネジメントの 実際 3	標準予防策と感染経路別予防策 CDCガイドライン 処置別感染予防策			講義	外部講師	
10	在宅における感染 予防策	在宅医療処置の感染予防策			講義		
11	職業感染予防策	職員を守る感染防止策 ワクチン接種			講義		
12	新興感染症とその対策	コロナ感染症・HIV・SARS・輸入感染			講義		
13	感染管理の実際 1	院内サーベイランスの実際 感染発生データの収集・分析・評価・実践			講義		
14	感染管理の実際 2	感染管理看護師の役割			講義		
15	まとめ・試験					専任教員	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～8 医療安全 看護の統合と実践（2） （医学書院） 回数9～14 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学（11）（医学書院）					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	災害看護・国際看護	担当 教員	外部講師＊	単位数	1	時期	3年次 10月～
				時間数	15		
目的：災害看護における基礎的能力を身に付けるとともに、国際看護の必要性が理解できる。							
目標：1）災害の概念、災害時の健康障害について理解する。							
2）災害急性期の看護活動の実際を理解する。							
3）トリアージの基本的知識と方法について理解する。							
4）国際看護の現状や動向、看護活動の実際を知る。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	災害・災害看護に関する知識	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア			講義	外部講師	
2	看護の役割と看護活動	関係機関、他職種との連携 在宅・地域における連携 災害ボランティア 避難所における看護ケア			講義		
3	災害時に必要な技術の実際1	救急技術(応急処置、循環管理、外傷治療、搬送)の実際 災害時に多い傷病名と応急処置			講義		
4	災害時に必要な技術の実際2	心肺蘇生の実際			演習		
5	災害時に必要な技術の実際3	トリアージの実際			演習		
6	国際看護1	看護とグローバル化 国際救援活動の基本理念			講義	外部講師	
7	国際看護2	国際救援活動の実際とマネジメント			講義		
8	試験（1h）					外部講師	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践（3）(医学書院)					
事前準備や受講要件等							

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	緩和ケア	担当 教員	外部講師 ＊	単位数	1	時期	3 年次 1 0 月～
				時間数	15		
目的：緩和ケアを理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。							
目標：1）生と死を考える。							
2）緩和ケアの目的・意義を学ぶ。							
3）緩和ケアとしての身体的・精神的・社会的・スピリチュアル・家族ケアの実際を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	緩和ケアとは	緩和ケアとは何か 緩和ケアの歴史・現状 疼痛緩和 チームアプローチ			講義	外部講師	
2	死を考える	死を考える 死に直面した人間の現実、死の看取りと医療者			講義	外部講師	
3	緩和ケアの進め方 身体的ケア	癌性疼痛、全身倦怠感、呼吸困難等			講義		
4	精神的ケア	不安・恐怖、怒り、抑うつ、せん妄等			講義		
5	社会的ケア・家族ケア	信頼関係の確立と問題の認知 グリーフケアの方法			講義		
6	緩和ケアの実際 1	スピリチュアルケア			講義	外部講師	
7	緩和ケアの実際 2	スピリチュアルケア			講義		
8	試験（1h）					外部講師	
評価方法		回数2～5 筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 緩和ケア （医学書院） 生と死の看護論 （メヂカルフレンド社）					
事前準備や受講要件等							

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	統合技術演習	担当 教員	専任教員	単位数	1	時期	3 年次 4 月～
				時間数	30		
目的：臨床実践に近い状況において、基礎的な知識と技術が統合できる。							
目標：1）看護実践における研究の意義・目的を理解し看護研究のプロセスを学ぶ。							
2）事例を通して、自己の知識・技術を振り返ることができる。							
3）複数の模擬患者がもつ看護上の問題を明確にし、根拠に基づいた援助の優先度が分かる。							
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員
1	看護研究 1	看護研究の意義 看護研究の種類				講義	専任教員
2	看護研究 2	研究疑問（リサーチクエスション） 看護研究における倫理				講義	
3	看護研究 3	文献クリティーク 引用・参考文献の記載方法				講義	
4	看護研究 4	ケースレポートの進め方 論文の記載方法				講義	
5	ケースレポート 1	原著論文の作成 1				講義	
6	ケースレポート 2	原著論文の作成 2				講義	
7	ケースレポート 3	原著論文の作成 3				講義	
8	ケースレポート 4	発表原稿の作成 ケースレポート発表準備・リハーサル				講義	
9	ケースレポート 5	ケースレポート発表 1				講義	
10	ケースレポート 6	ケースレポート発表 2 ケースレポートから学んだこと				講義	
11	複数患者への看護 1	複数受け持ち患者の事例展開 1				講義	専任教員
12	複数患者への看護 2	複数受け持ち患者の事例展開 2				講義	
13	複数患者への看護 3	複数受け持ち患者の事例展開 3				講義	
14	複数患者への看護 4	引継ぎ体験				講義	
15	複数患者への看護 5	多重課題・時間切迫事例の展開				講義	
評価方法		回数1～4	記録物(ワーク用紙)				20点
		回数5～10	記録物(ワーク用紙)・発表・態度				45点
		回数11～15	グループワークなどを総合的に評価、レポート				35点
参考文献と資料		テキスト： 回数1～10 看護研究サポートブック (メディカ出版) 回数11～15 看護学概論 基礎看護学① (メディカ出版)					
事前準備や受講要件等							